

医療・介護・健康

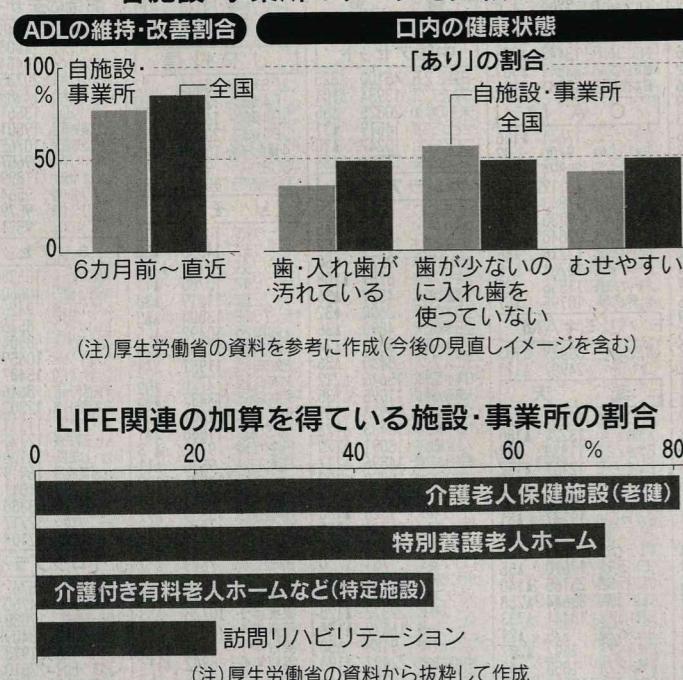
Medical, Care & Health

日常生活動作(ADL)は10項目の合計点で評価
(数字は点数、100点満点)

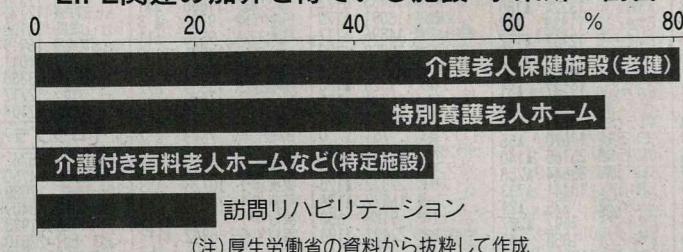
	自立	一部介助	全介助
食事	10	5	0
整容	5	0	0
入浴	5	0	0
椅子とベッド間の移乗	15	10 監視下 座れるが移れない	0
平地歩行	15	10 歩行器など 車椅子操作が可能	0
階段昇降	10	5	0
更衣	10	5	0
トイレ動作	10	5	0
排便コントロール	10	5	0
排尿コントロール	10	5	0

(注)厚生労働省の資料を参考に作成

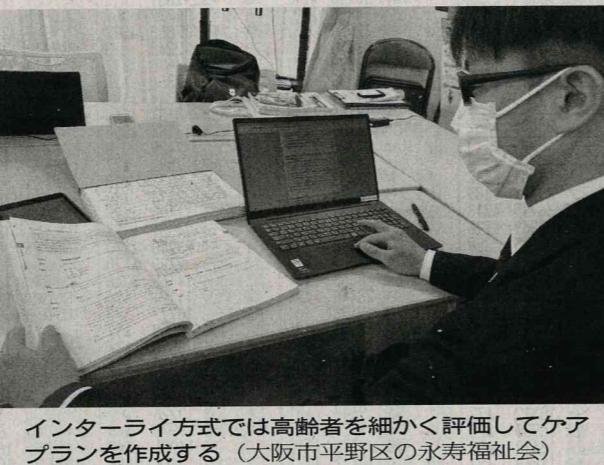
科学的介護情報システム(LIFE)は全国平均と各施設・事業所のデータを比較できる



LIFE関連の加算を得ている施設・事業所の割合



データで介護の質を向上



インターネット方式では高齢者を細かく評価してケアプランを作成する(大阪市平野区の永寿福祉会)

「有料老人ホームに入居したら1ヶ月で車椅子から自分で立てなくなってしまった……」。一人暮らしへ80代後半の伯母をサポートしていた50代の甥(おい)は首をかしげる。入居後は週2回のリハビリを受けていたが、「日中はずっと車椅子に座らされているからではないか」といぶかしむ。

伯母は入居前まで自宅マンションで一人暮らしを続けていた。施設に入居したのは未明に不安を感じて救急車を呼んでしまったためだ。自宅では杖を使って移動していた。甥は「老化のせいなのか、介護の質が問題なのかを知りたい」と話す。

介護施設や通所・訪問リハビリの事業所ごとに「どれだけ自立状態を保てるのか」などの介護の質は公開されていない。介護施設の情報を公開し

いる民間サイトもあるが、費用や設備、食事や介護サービスの提供体制、スタッフの配置状況などにとどまる。

ケアの状況を比較して介護の質向上を目指す事業は動き出している。「科学的介護情報システム(LIFE)」が実施しているケアプランや内容に加え、利用者の日常生活動作(ADL)に関するデータを国に提出すると、施設向けの専用サイトで施設と全国の状況を比較できる。

ADLは平地の歩行や階段の昇降、椅子とベッド間の移乗のほか、食事、トイレの動作などを点数化して「自立」「一部介助」「全介助」などに分類する。例えば6ヶ月前と比べて高齢者の状態を維持・改善できた人の割合などで介護の質を評価

厚生労働省によると、2024年4月時点での介護老人保健施設(老健)は8割が参加。特別養護老人ホームも7割を超え、など施設系は高いが、訪問リハビリの事業所は2割にとどまる。

国は21年度からライフラインに関するデータを提出すると介護報酬を加算している。施設などは収入が増えるが、「データを入力する職員の負担が大きい」などの理由で見送る施設が少なくない。

日本では介護の質評価の議論が途上で、公開する議論に至っていない。欧米では施設別などで評価結果を公開している。

米国は介護の質の低さが社会問題になり、1990年代から質評価に取り組んだ。政府機関のサイトでインターネット方式に近い項目で評価した結果を5つ星形式で一般向に公表している。

ドイツはデータを第三者機関が審査して「移動や自立」など24項目について4段階で評価し、公表している。

高齢者は加齢に伴い、身体機能は次第に低下していく。だけに介護の質評価は難しいが、各国は多くの項目で評価して比較できるようにし、質の向上とともに利用者の施設選びにも役立てている。

日本では介護の質評価の議論が途上で、公開する議論に至っていない。欧米では施設別などで評価結果を公開している。

日本では介護の質評価の議論が途上で、公開する議論に至っていない。欧米では施設別などで評価結果を公開している。